

文化ささえびと

広島を文化を裏方として支える人々にスポットをあて、仕事についてお話を伺います。

アートナビゲーター（現代美術館）

現代美術館の館内で来館者からの質問に対応したり、作品解説をしながら館内を巡るガイドを行うアートナビゲーター。現在、約10名が活躍しています。その仕事の一部をご紹介します。

美術への情熱と来館者からの生の反応を糧に

現代美術館では毎日、アートナビゲーターが展示室に常駐し、来館者の質問に答えるなど鑑賞のサポートをしています。また、予約団体のガイドも務めます。来館者からの質問は「この作品は何を表現しているの?」といった素朴な疑問から制作手法などの専門的な事柄まで、多岐にわたるそうです。そのため作家や展示作品に関する情報収集、勉強は欠かせません。新しい展覧会が始まる約1ヵ月前から書籍、インターネットを使った自習を始め、その後、学芸員による座学での研修を受けます。展覧会会期の直前になると、実際に展示室に置かれた作品を巡りながら学芸員のレクチャーもあります。そうやって地道な努力を経て蓄えた知識を、ナビゲーターは来館者の年齢や理解度にあわせて言葉を選び、表現を工夫し、わかりやすく伝えるよう努力するそうです。時には来館者の反応に「そんな鑑賞の仕方もあったか!」と感動することもある。時間のかかる事前準備は大変ですが、大好きな美術を通じて人と繋がることができるこの仕事に、ナビゲーターの皆さんはやりがいを感じているそうです。

展示室でこの「?」マークを身につけている人がアートナビゲーター。



見学に訪れた小学生をガイド。ナビゲーターの言葉をきっかけに、目を輝かせて作品に入る子ども達。



学芸員による研修では、プロジェクターを使い、作家の生涯、作品が制作された時代背景など詳しく学ぶ。ICレコーダーで学芸員の説明を録音しつつ、みんな一心にメモをとる。



事前準備の集大成のファイル。新しい展覧会が始まるたびにファイルは増えていき、「これは何ものにも代えがたい私の宝物」と言うナビゲーターも。他都市の美術館で先行展示があると聞けば、他県でも作品を自分の目で確かめに行くほど熱心な人も。

「文化ささえびと」は3ヵ月毎に掲載します。



私のグルメスポット

旬菜工房 茶里 (中区中島町)

『ひろしまポップカルチャー 2017』(詳細→本誌P.3)の島村 誠さん(広島ポップカルチャー交流促進委員会 事務局長)おすすめのお店



●島村さんより

4～5年前に初めて訪れて以来、会社の仲間や友人とよく利用しています。特長は地産地消で、料理に安佐南区沼田町吉山、戸山地区の野菜が使われています。おすすめを挙げるなら、やはり季節を感じるものが頭に浮かびます。春は玉ねぎ、ふきのとう。この時期はトウモロコシ、冬は牡蠣の天ぷらなど。そして毎回頼んでしまうトマトいっぱいのピザもはずせません。厳選されたお酒をカジュアルに飲める点も気に入っています。

●季節感あふれる沼田産の野菜料理が人気。

野菜は全て4軒の契約農家から仕入れ、時には収穫を手伝うなど産地と深いつきあいをしている。料理は和洋中とバラエティに富み、仕入にあわせてメニュー構成が変わり、毎日来てても飽きない。夜ごはんセット(450円)と好みのメイン理を組み合わせで定食にできるなど、单身者には嬉しいサービスメニューもある。白壁と木を使った素朴な店構えも落ち着いた。



鶏とナスのさっぱり甘酢あんかけ(700円)

【旬菜工房 茶里】

中区中島町2-5-1F TEL / 082-246-8672
 営業時間 / 平日 11:30 ~ 14:30
 17:30 ~ 22:00(L.O.21:00)
 土曜 11:30 ~ 21:00(L.O.20:00)
 定休日 / 日曜、祝日

